

2022年12月度のトピックス

12月26日

付属中3年が体験参加、1.2年生が見学



来春高校生になる付属中学生で、硬式野球部を希望する6名が高校生の練習に体験参加した。高校野球の厳しさを入学前に経験してもらうのが狙いで、門戸は開いているが、20年近くなる附属中学出身で、純粋に中学野球部出身で過去にレギュラーとして夏の大会にフル出場したのはたったの1名という厳しい現実もある。この日は1.2年生も1塁側ベンチに座り、高校生の練習を熱心にメモを取りながら見守った。昼休みの前には里井監督から激励の言葉もあり、双方にとって有意義な日となった。

12月24日

立命館守山と合同100名超でASICS測定



年に2回実施しているASICSの測定が、冬休み初日に立命館守山と合同で実施された。宇治の70名と守山の38名で100名超えとなったが、事前にグループ分けされており、ASICSスタッフの指示で、手際よく測定された。

グラウンドは朝から凍てついており、時間が経つにつれて水が浮いてくる状況だったが、午後からは整備も行い、ボールやバットを使った計測も行われた。全ては数値化され、部員にデータとして示され、自分の弱点など現状を知り、これからの課題に取り組むことになる。

硬式野球部 [TOP PAGE](#)へ

2022年11月度のトピックス

11月26日

刺激を与える、11名が大学練習に参加



この日は三室戸でB戦のみとなったため、試合に出ないメンバー11名が終野の大学野球部の練習に参加した。スタッフからは「現状に甘んじず、上を見る」と言われているが、大学生の中に混じると、何から何まで自分が劣っていることに気づくはず。そしてこの刺激をチームに持ちかえてもらいたいという思いもある

朝からウォーミングアップと打撃練習、最後は高校生のためにと、大学生とともにシートノックも受けさせてもらった。

11月20日

高野連トレーニング講習会で大先輩直々



20日、わかさスタジアムで久々に京都府高野連主催のトレーニング講習会が行われ、立命館宇治からは1年生の家村が投手として、岩崎が捕手として代表参加した。

モニター指導として協力するのは地元の社会人野球の名門・日本新薬。現役投手として山上大輔OBが頑張っており、西田部長と現役選手2名と講習会前に挨拶を交わした。西田部長からは「山上OBから特に家村には熱心にアドバイスを頂き、家村も喜んで」と報告があった。

11月16日

急遽アウェイで大阪桐蔭と練習試合



大阪桐蔭から「急だが明日、Bチームと練習試合をしていただけませんか」と練習試合の申し込みがあり、メンバーを厳選し、大阪桐蔭野球部グラウンドへ向かった。Aチームはこの日、明治神宮野球大会へ向けて、出発とのこと。

この春から大阪桐蔭Bチームと練習試合をするのは3試合目であり、こちらは目一杯のAチームだが、野球に取り組む姿勢など見習う点は多い。そして来年はこのメンバーが成長し、全国の頂点を狙う。これで3連勝だが、早くAチームにも胸を借りられるように成長しなければならない。

11月3日

練習試合A.B編成ではなく、学年編成の試み



この日はホームとアウェイで練習試合を行ったが、A.Bという実力編成ではなく、完全な学年別編成で行われた。秋季大会以降、それまでの固定観念を振り払い、新しい戦力を模索する狙いで、1年チームはアウェイでそれぞれ2試合。

特に1年チームは常々先輩に引っ張られる形で試合に出場しているが、上級生がいない中、どのように声を掛け、誰がリーダーとなってチームを牽引するのか。プレーはまだまだ未熟だが、声を掛け合い、良い雰囲気でした。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)△

2022年10月度のトピックス

10月23日

3年生3名が練習試合に出場

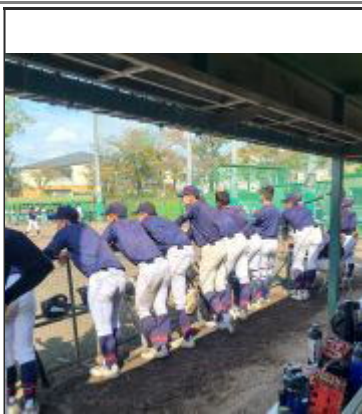


この日は午前中、西城陽と洛南交流戦を行い、午後から同チームと練習試合。この午後からの練習試合に3年生3名が先発出場した。勿論、相手チームにも了解を得たことだが、3年生も立派な部員。秋季大会には出場できないため、夏の大会敗戦で「引退」という言葉が使われるが、昨年のLeagaにも3年生は出場している。

この日は(写真左から)岩間、星野、田口で、岩間と星野は木製バットで打った。岩間はダブルプレーを阻止しようと1塁ベースへヘッドスライディングするなど、闘志あふれるプレーを見せてくれた。

10月22日

今シーズンも後1ヶ月、来春へ爪痕残せるか



中間テストも終わり、この週末から練習試合が再開された。この日の相手は中京大中京。Aチームはアウェイで、Bチームはホームでそれぞれダブルで試合を行った。今シーズンも後1ヶ月。明日からは洛南交流試合、来月にはLeagaも控えており、チームは3班編成で試合を行う日もある。来春に向けていかにアピールして、来春につなげるか。

春からはまた多くの有望新生を迎える。現状の中で「自分の立ち位置」に甘んじていれば、特に上級生は春から数試合のチャンスもないかもしれない。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)

2022年度

秋季京都府高等学校野球大会 速報

4月9日18日(日) 4回戦 対京都翔英 太陽が丘球場

明暗分けた初回の攻防

● 立命館宇治 000 000 0=0

○ 京都翔英 401 400 x=9x

(7回コールド)

【立】 戒谷、杉村、杉田聖、十川-中川、伊東

【京】 小笠原、迎窪、松山-西山

▼2塁打 門山、梅谷、古井、小笠原(京)

【寸評】

結果的に初回の攻防がゲームの勝敗を決することになった。

1回表の立命館宇治は先頭の神農が中前打で出塁し、犠打で1死2塁とすると、続く3.4番が連続四球で満塁の好機を迎えた。しかし続く5番・北川陸は併殺打で無得点に終わった。

その裏の京都翔英は2四球で得た2死1.2塁の好機に5番が先制のタイムリー、続く打者に四球を与えたところでマウンドに上がったリリースから、走者一掃の2塁打で4点をリードした。

2回からリリースした杉田聖はストライクを欲しがるところを痛打され、試合は防戦一方になった。

立命館宇治は不安定な京都翔英投手陣から、チャンスを作るも決定打が出ず、0行進。

夏のレギュラーがほとんど残り、「不安は投手」という悪い予感が的中してしまった。



写真は先発した戒谷慶人(2年)

4月9日11日(日) 3回戦 対京都文教 舞鶴球場

完勝とはほど遠い7回コールド

○ 立命館宇治 310 321 0=10

● 京都文教 011 000 1=3
(7回コールド)

【立】北川陸、杉田聖-中川

【京】藤原、宮口、浦野-松川

▼本塁打 森本(京) ▼3塁打 築山(立)

▼2塁打 神農、北川陸、市村(立)

【寸評】

7回コールドで勝ったが、得点差ほど「完勝」感はなかった。

試合は初回到築山の中前打や2四球で得た2死満塁から、公式戦初打席の中川が中前へ弾き返し2点、続く市村も中前へ運び、3点を先制した。立ち上がりからセンター返しを心がけた打撃は鮮やかであった。2回にも四球の走者置いて、築山が中越えに3塁打を放ち加点。ゲームを一方向的に支配するかに思えた。

北川は4点リードでリズムに乗るかに思えたが、2回にはタイムリー、3回にはソロを被弾し、一時緊張感が高まった。結局は得点差に守られたものの、計8安打を浴び、コールド成立の7回には先頭から連続四球で杉田聖にマウンドを譲った。

打線は4回にはワイルドピッチや北川の2塁打で加点。6回にも市村のタイムリーで攻撃の手を緩めなかった。

送りバント失敗の場面もあり、一気にたたみかけた攻撃ではなかった。



写真は初回到先制2点タイムリーを放った中川翔(1年)

4月27日(土) 2回戦 対京都共栄学園 あやべ球場

3点先行されるも「経験値」で逆転、3回戦へ

● 京都共栄学園 300 000 001=4

○ 立命館宇治 302 310 00x=9x

【京】神内、徳田、塩見-吉見

【立】北川陸、杉田聖-伊東

▼本塁打 市村(初回3ラン)

【寸評】

いきなり3点を追いかけるスタートとなったが、1回裏1死から塚本が四球、北川陸の右前打で1.3塁のチャンスを迎えると、市村が左翼席に放り込み、同点。重苦しい雰囲気を一掃した。

3回に無死満塁から稲葉の押し出し死球、伊東の中前打で2点を加えると、4回には塚本死球、北川右前打で1.3塁とし、稲葉の犠飛、伊東の左前タイムリーで着実に加

点した。5回には築山のタイムリーで加点し、6点差のまま試合は進んだ。

先発した北川陸は立ち上がりから連続3四球と詰ませた当たりが内野を越え、いきなり3点を献上した。しかし四球はすべてフルカウントからの際どい球で、当たりも不運であり、次回に期待したい。思わぬ形で初回からのリリーフとなった杉田聖は8回2/3で被安打4と踏ん張った。

3点先行されても慌てず、その裏にすぐさま同点に追い付いたことが大きかったが、あくまでも「経験値の差」であり、上位に勝ち上がる確信を得るには至らなかった。



写真は初回に3ランを放った市村祐樹(2年)

大会登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学		出身チーム	
1	投	北川 陸翔	2	南淡	(兵庫)	中学野球	
2	捕	伊東 航	2	三好	(愛知)	ボーイズ	愛知長久手
3	一	稲葉 康誠	2	旭丘		ボーイズ	京都二条
4	二	萩原 大智	2	龍華	(大阪)	ボーイズ	大阪八尾
5	三	末次裕二郎	2	交野四	(大阪)	シニア	交野
6	遊	塚本 遵平	2	田辺		ボーイズ	南都
7	左	水落 大雅	1	立命館宇治		ボーイズ	大阪交野
8	中	市村 祐樹	2	水口	(滋賀)	ボーイズ	湖南
9	右	築山 隆翔	2	二名		ボーイズ	生駒中央
10	投	杉田 聖児	2	藤嶺藤沢	(神奈川)	シニア	横浜泉
11	投	十川 奨己	1	香芝西	(奈良)	シニア	五條
12	捕	中川 翔	1	長尾	(大阪)	ボーイズ	南山城
13	捕	野間 祐太	2	箕面三	(大阪)	ボーイズ	箕面
14	内	神農 翔多	2	光陵	(三重)	ボーイズ	三重北
15	内	橋本 琉生	2	枚岡	(大阪)	シニア	大阪中央
16	内	谷脇 柊人	2	立命館宇治		中学野球	
17	外内	倉知幸太郎	2	坂下	(愛知)	ボーイズ	愛知瀬戸
18	投	戒谷 慶人	2	東宇治		少年野球	東山ライダース
19	内	土田 峻佑	2	東宇治		中学野球	
20	投	辻井 大陸	2	松原六	(大阪)	ボーイズ	中百舌鳥

4月日 () 2回戦 対京都共栄学園 あやべ球場

立命館宇治 =

立命館宇治 =

【立】

【立】

▼塁打

【寸評】

写真は(年)

2022年9月度のトピックス

2022年度 秋季京都府高等学校野球大会

9月22日

硬式野球部OBが学園祭でキッチンカー出店



本日学園祭が行われたが、09年度卒の青木良文OBがキッチンカー「じじいの餃子」で出店した。学園祭ではかつてのクラス模擬店を廃し、地元商店街やサンガ関係からキッチンカーを出店してもらうスタイルになっており、青木OBもサンガを通じて出店の申し込みがあった。

愛知県出身で卯瀧前監督就任の年に入学。3年の夏まで寮生活を送りながら野球を続けた。3年2学期以降は退寮し、名古屋から新幹線通学していた。

思わぬ形で母校へ帰ってきてくれてうれしい限りである。

9月14日

夏の全国優勝・仙台育英からのお礼状



第104回選手権大会で優勝した宮城県代表・仙台育英からお礼の手紙が届いた。仙台育英・須江監督と立命館宇治・里井監督が全国の同期で作るLINEの仲間で、そんな縁からこの春にも練習試合で胸を借りた。

今大会では抽選で大会6日目となったため、「もう一度しっかりと練習したい」と開会式翌日、立命館宇治の三室戸グラウンドで練習した。その時のお礼状である。練習を見て「これでも全国優勝できないのか」と思ったが、見事な優勝であった。

9月12日

地元の製菓会社とコラボ、野球部の手土産



高校野球の世界では他府県のチームに試合に出かける時には「手土産」を持参する習慣がある。立命館宇治もアウェイで練習試合に出かける時には引率担当の顧問が近隣に手土産を買いに行き、相手チームに渡してきた。

ある時、大阪の興国高校から頂く餡の詰め合わせが目についた。「美味しい。日持ちもするし、土産としては良いよね」と、裏側のラベルを見て驚き。製造元は宇治市菟道の「岩井製菓」となっている。

これは...と早速、立命館宇治硬式野球部のラベルをデザインしてもらい、オリジナル作成を依頼した。

9月10日

500歳野球、秋季大会は無念の棄権試合



500歳野球秋季大会初戦が10日(土)岡崎球場で行われた。対戦相手は1年前にコールド大敗を決し、この春季大会の優勝校・京山中山城クラブ。1年前の準々決勝では序盤から猛攻に遭い、コールド大敗であったが、この日は序盤3回を終わって、1-1と健闘。4回は60歳以上が登板しなければならないが、そこで明暗を分かれた。30度を遙かに越える中、球数も60球を越え、「ここまで」と判断し、無念の棄権試合となった。

9月3日

通過点、北川陸が高校通算30本塁打



6月に岩間前主将が高校通算30本塁打を打ったと書いたが、北川陸翔(2年)が、この日の練習試合・対社(兵庫県)で通算30本目となる本塁打を放った。7回先頭打者として放った打球はあっという間にレフトを越え、俊足を生かして、一気にホームベースを踏んだ。過去に一度だけ経験があるランニング本塁打が節目となった。

北川本人はこの新チームから投の柱としても期待されており、そちらの方は一進一退であるが、この男の能力はまだ投打とも全開ではない。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)

2022年8月度のトピックス

8月22日

夏休みの宿題点検を全て完了



夏休み恒例の宿題点検が行われた。第1回目は4日で目標達成率は50%。22日のこの日は100%達成してクラブ顧問の点検を受けることが義務づけられていた。

欠席部員を含めて、全員が提出し、朝から顧問の点検を受けた。この段階で未完成の者は自動的に秋季大会初戦のベンチ入りメンバーから外れることが公言されていた。夏休みに入ってからすぐにその日程は示されており、全員が計画的に取り組んで完了していることを確認した。

8月11日

秋季大会見据え、練習試合も振り返り点

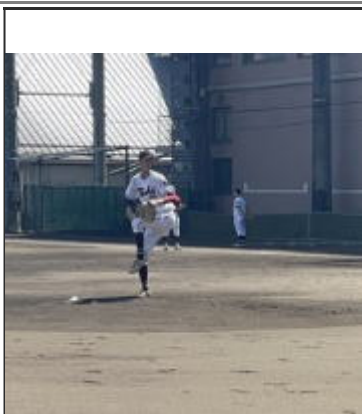


夏休みも半分が終わり、練習試合も振り返り点。夏のレギュラーが多数残り、関東遠征も経て、チームは秋季大会の頂点を見据えてどうなのかとフィードバックすると、残念ながら「決して弱くはないが、圧倒的な力強さは感じられない」というのが正直なところ。

特に投手陣に「核」が現れていないこと。そして夏からのレギュラーも他を圧倒する迫力にはほど遠い。「立宇治あるある」と言われても仕方がない「それなりに」という印象しかもてない。秋季大会まで後3週間。このままでは頂点は遠い。

8月8日

関東遠征組、強烈な洗礼浴びる



4年ぶりの関東遠征組は、まずは例年お世話になっている桐光学園でのダブル。過去は大差で敗れ、「これでも激戦神奈川では甲子園に来れないのか」と驚かされる。

今日は満を持して、現段階でのベストメンバーを組んだが、初回到1点を先制したものの、以降は防戦一方。2本塁打を含めて、長短15安打を浴び、打線はわずか5安打に封じられ、一方的に敗れた。しかしこれは例年のことであり、この経験から「井の中の蛙」から脱して、さらなる高みを目指す。それが関東遠征の目的だ。

8月7日

長年高校野球を見てきて、初の光景



本日よりAチームが関東遠征に出たため、ホーム三室戸では大阪の府立高校とB戦が行われた。試合前ノックでは、監督は外野ノック、そして内野ノックは女子マネが行った。女子マネが補助員に入るケースは多々あるが、女子マネ自らがノックバットを持ち、ノックする光景は長年高校野球に携わっていても初の光景。これがまた左打ちで、テンポ良く上手い。聞けば中学時代は女子野球の選手だったとか。うちの部員でもこれほどテンポ良くノック出来る部員はいない。

8月5日

40名参加で体験入部会を実施



オープンキャンパスの一環として体験入部会が実施された。例年この時期に行うことは中学球児に浸透してきているのか、6月あたりから実施日程の問い合わせが続いているが、今年は中学全国大会での勝ち上がりで、急遽の不参加があったため、最終的な参加者はやや少なめの40名強。

朝から小雨の降る時間帯はあったが、厳しく照りつける太陽はなく、湿度は高めながら、気温の急上昇はなかった。近年は現役部員のサポートも完璧で、この日も裏方も含めて、会がスムーズに進むようにチームワークを発揮し、半日で終了した。

8月2日

早くも秋季大会抽選会、塚本新主将



選手権京都大会が終わったのも束の間、本日京都産業大学付属で秋季大会の抽選会が行われた。大会はフリー抽選で、敗者復活はなく、初戦から一発勝負のトーナメント。

練習試合を途中で抜けて、会場に駆けつけた塚本新主将は本抽選では最後の方であったが、私学ひしめくブロックを引いた。目標を高く掲げれば、相手がどこであっても関係ない。スタッフも部員も結果を聞いても特に慌てることもなく、淡々としていた。

2022年7月度のトピックス

第104回全国高等学校野球選手権京都大会 速報

7月27日

早くも練習試合、多人数でABで二班編制



新チームは1.2年70名とかつてない大人数でのスタートとなった。この日は初めて練習試合が行われたが、三重県へのアウェイ。バス1台に乗りきれぬ人数ではなく、蜜の回避という観点からも、人数を絞っての遠征となった。

アウェイのメンバーに選ばれなかったメンバーはこの日は三室戸で練習となった。B戦も組まれているが、入れ替えは頻繁に行われる。来月、3年ぶりに実施予定の関東遠征も人数は28名と決められており、まずは今月下旬、8月初旬に実施される練習試合で結果を残し、遠征メンバーに選ばれることがスタートとなる。

7月22日

新主将に塚本遵平、新主務に野間祐太



新チームがスタートし、幹部を選出するが、現3年チームは「当面は日替わり」であった。現2年は入学当初から塚本遵平（写真）がリーダーシップを発揮しており、実績・姿勢・学校生活も申し分なく、3年生・スタッフから満場一致で選出された。

主務の野間祐太もほぼ意見は一致。副主将は現段階では数名の候補があり、未定。経験者が多いだけに、誰でも出来そうだが、1.2年で70名と大所帯でのスタートは近年になく、塚本・野間をサポートできる体制を早く確立したい。

7月22日

当然のこと、敗戦即日新チームスタート



夏の選手権京都大会が終わり、バスでグラウンド帰着後、「最後のミーティング」が行われた後、即1.2年生の新チーム練習がスタートした。里井監督はまず全部員に希望のポジションを聞き、チームとしてどこを目指すべきか全員に説いたが、「大会初日に敗れたチームとはもう10日以上之差がある。そして秋季大会は1ヶ月を切っており、夏で言えば強化メンバー集中練習に突入している期間である。時間はない。今月28日までは全員平等に練習させるが、それ以降はメンバーはどんどん絞られる」と宣言した。

7月22日

3年ぶりに吹奏楽、チア、アメフト応援



終業式が終わり、初めての選手権大会。大会規定で準々決勝からチアと吹奏楽の応援が認められているため、この日は両部とアメフト部の計150名がスタントが声援を送った。

現部員は公式戦で他のクラブから応援を受けるのは初めてで、スタンド配置も3年前までのノウハウを思い出し、スムーズな応援が行えた。アメフト部は「3年前はアメフト部が応援に来た試合は無敗。今日も絶対に勝てる」と声援を送ってくれた。

7月2日

保護者会が恒例の激励会で思いを託す



立命館メモリアルの後、保護者会主催の激励会が室内練習場で行われた。全部員・スタッフが参加し、池田会長から激励の言葉を頂いた後、保護者会から激励品が手渡された。里井監督から近況報告、岩間主将が決意表明を述べた。

この学年はコロナ禍に入学し、高校野球を始めたのは実質高校1年の6月以降。その後も臨時休校があり、練習試合の移動が大きく制限された時期もあった。

それでも30名から一人の退部者を出すことなく、3年夏を迎えることになり、何とか夏に結果を残してもらいたい学年だ。

7月2日

OB会が選手権京都大会前に現役を激励



OB会が選手権京都大会を前に三室戸グラウンドへ激励に来て下さった。湯川OB会長、渡辺氏、武吉氏、出雲氏の4名で、立命館メモリアルをしばらく見学し、里井監督と岩間主将に激励品を頂いた。

湯川会長は主将だけでなく、エースや主力選手にも大会に挑む心構えや考え方を丁寧にアドバイスして下さいました。

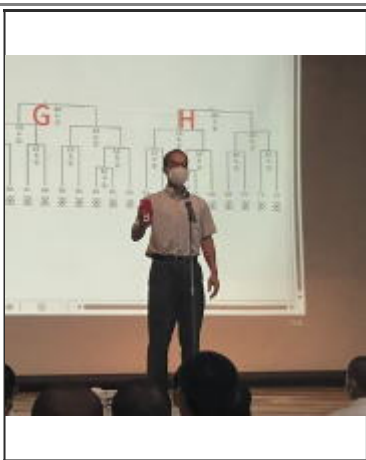
宇治・立命館宇治を通じて、史上最強の打者であり、その言葉の重みは大きく響いたはずである。

[硬式野球部](#) [TOP PAGE](#)△

2022年6月度のトピックス

6月25日

選手権京都大会、岩間主将が挑む



第104回選手権京都大会の組み合わせ抽選会が龍谷大平安高校で行われた。秋季・春季ともにベスト8へ進出し、シード権を獲得している立命館宇治は岩間倫太郎主将が挑み、ブロック抽選に挑んだ後、本抽選のくじを引いた。

初戦となる2回戦の対戦相手は同じ付属校の立命館となった。立命館は秋・春ともに2次戦に進出した実力校。

公式戦での付属校対決は何度か実現しているが、選手権は久しぶりであり、加えて初戦となれば、秋・春も含めた初となる。

6月22日

懐かしいOBが立命館宇治とコラボ授業



写真は07年3月卒の両角聖人OB。長野県茅野市出身でヤングリーグ・諏訪ドリームから本校を希望して入学。2年途中から主務としてチームを支えてきた。現在複数の企業に関わっており、本校の川本IM主任の縁から、12月まで谷口先生の授業の一部を行うことになった。

「もう33歳になっちゃいました」と、教員室を訪ねてくれた。年末には当時の仲間と集まり、話題はいつも母校の野球部のことになるとか。石川顧問とは卒業以来の再会で、これから年末まで頻繁に会うことになりそうである。

6月19日

初芝橋本・卯瀧先生と再会



前監督で現初芝橋本監督・卯瀧逸夫先生と再会した。敦賀気比戦が初芝橋本との変則ダブルだったため、立命館宇治がグラウンドに到着した時にはすでに試合中であった。「今のヒットを飛び込んででも止めてやろうという『執念』がお前のプレーには感じられんのか」と卯瀧節がグラウンドに響いており、少し安心。昨年夏は全国優勝した智辯和歌山と和歌山大会で延長12回の激闘の末敗れた。「OBには元気にしていると伝えて下さい。けどまだまだ弱い」と仰ってました。

6月19日

選抜シリーズのラスト・敦賀気比に逆転負け



前週までセンバツ出場校を相手に練習試合で4戦全勝していたが、この日はそのシリーズラストの敦賀気比戦。序盤4回までは加藤の力投で両チームとも0行進となったが、5回表に北川陸の長打などで4点を先行すると、試合が動き出した。この劣勢に火が付いた敦賀気比打線が、それまでとは変わったように連打を重ね、満塁本塁打の一発で追いつくと、その後手を緩めることなく、あっさりと逆転。その後もなんとか食い下がったが、追いつけなかった。さすが北信越の王者。良い勉強をさせてもらった。

6月12日

センバツ出場校相手に4戦全勝、ホンモノか



春季大会が終わってからの練習試合ではセンバツ出場校の対戦もあり、現在、和歌山東、天理、大分舞鶴、金光大阪と4戦全勝。特にコールド勝ちした天理では、相手監督から「コールド負けなんて、秋の大阪桐蔭以来ない」と言われた。この日もベスト8の金光大阪と対戦。序盤は願ってもない投手戦となったが、初めて訪れたチャンスにたたみかけて、1点差で逃げ切った。この強さはホンモノか。

来週には敦賀気比戦を控えており、真価が問われる。

6月11日

岩間倫太郎主将が量産、高校通算30号



春先から主将でありながら、B戦にでの出場に甘んじ、春季大会でも二桁線番号の辛酸をなめてきた主将・岩間倫太郎が春季大会以降、驚異的ハイペースで本塁打を量産している。直近11試合で7本塁打。昨秋は1年・北川陸翔のペースに圧倒されたが、この1ヶ月間の岩間はまさに神かっている。どの本塁打も飛距離がすさまじく、今日はセンバツに出場した大分舞鶴のエースから、ライト奥の道路沿いのネット上段まで届いた。この間室内練習場屋根にも2本直撃。

なかなか躍動が見られない3年生の中で一人気を吐いている。

6月10日

ASICSによる測定を全部員に実施



年末に行われたASICSによる測定が半年ぶりに実施された。部員は3学年100名となるため、効率よく実施できるようにグループ分けし、通常練習と並行して行われた。

身体の数値だけでなく、「野球」という観点から、自分の数値を把握し、何が優れていて、何が足りないのか課題を明確にするのが目的である。

立命館とASICSが業務提携を結んでから、年に2回実施しているが、部員も自分の成長度が出る結果を楽しみにしている。

6月1日

大阪桐蔭Bと2日間ナイター試合シリーズ



平日の通常授業日だが、メンバーを厳選し、放課後にマイクロバスで枚方市の東部球場へ行き、大阪桐蔭Bチームと練習試合を行った。大阪桐蔭Bとは春に続いて二度目の対戦だが、試合開始は18時で、枚方市の東部球場でのナイター試合となった。

対戦相手もさることながら、ナイター試合は大会を前にした貴重な体験。大阪桐蔭の石田先生と西田部長が連絡を取り合い、大阪桐蔭OBの立命館宇治め小林コーチも駆けつけた。3日も同様の試合が実施される。

[硬式野球部 TOP PAGE](#)

2022年度

春季京都府高等学校野球大会 速報

4月8日（日） 準々決勝 対龍谷大平安 わかさスタジアム

序盤互角の展開も、後半一気に崩壊

- 龍谷大平安 000 005 04=9
- 立命館宇治 000 000 20=2 (8回コールド)

【龍】田中、足立-伊藤

【立】加藤、杉田聖、十川-林

▼本塁打 山口（龍）▼3塁打 辻村（龍）築山（立）

▼2塁打 稲葉2、北川陸（立）

【寸評】 前半5回を終了して、龍谷大平安安打1、残塁1、立命館宇治安打3、残塁3と互角の展開が、中盤以降一気に崩れた。

悪いながらも龍谷大平安に3塁を踏ませず、踏ん張っていた加藤だが、6回先頭の9番打者に四球を与えると、送りバントを狙う次打者にも連続四球。無死1.2塁からシフトの逆を突かれて先制を許すと、続く3番に左翼越えに3点本塁打を許した。さらに追加点を許し、それまでの奮投からは考えられないビッグイニングを与え、流れは龍谷大平安を大きく傾いた。

打線は1回1死1.2塁、4回1死3塁の先制機を迎えたが、生かせなかった。

勝敗が大きく龍谷大平安に傾いてから、7回に4連打で2点を返したが、あまりにも遅きに失した。

秋と比べて何が成長したのか

昨秋はそれまで無類の強さで相手を倒し、トーナメントを勝ち上がったが、準々決勝・京都国際戦では全く良いところなくコールドで敗退した。

今回もまた然りである。それまでとは別人のように、自ら崩れ去る。

エースの加藤は立ち上がりの不安を払拭する成長を見せ、確かにワンステップアップした。しかし今日のようなビッグネーム相手に互角の投手戦を踏ん張りきる強さはまだ身につけていないと言わざるを得ない。6回の加藤に何が起きたのか。

打線は龍谷大平安と同じく8安打を放ったが、誰もが喉から手が出るほど欲しい先制機に、相手エースを攻略する主軸と、勝敗が決しかけてから打ち出す主軸では明らかに差があった。

厳しいかもしれないが、そこの部分を克服できないと、夏もまたベスト8が関の山となる。



写真は唯一立ち上がりから2安打した築山隆翔(2年)

登録メンバーの変更

【背番号18】 **十川 奨己** 1年 投手 (香芝西中/五條シニア)

【背番号20】 **水落 大雅** 1年 外野手 (立命館宇治中/大阪交野ボーイズ)

4月5日(水) 1回戦 対宮津天橋 太陽が丘球場

長短15安打を浴びせ、6回コールド

- 宮津天橋 000 000=0
- 立命宇治 010 324=10 (6回コールド)
 - 【宮】秋田、中川-角山
 - 【立】加藤-林
 - ▼本塁打 築山(立) ▼3塁打 津脇、岩間、星野(立)
 - ▼2塁打 津脇(立)

【寸評】 2回無死満塁から加藤の併殺打の間に1点を先制した立命館宇治は、4回には2死2.3塁から津脇が中越えに3塁打を放ち2点を追加すると、続く塚本の3塁強襲安打で加点。

5回には北川の右前打を皮切りに、岩間の中越3塁打などで3点、6回には築山の右越2点本塁打、星野の右中間3塁打の後、ワイルドピッチで10点目を入れて、試合を決めた。

先発した加藤は6回を投げて内野安打2を含む被安打3、1四球、4奪三振で0封した。

加藤は今大会3試合18回無失点、被安打8、奪三振17、2四死球で3塁を踏ませたのは一度と安定感を示しているが、いよいよ準々決勝で正念場を迎える。



写真は2長打を含む3安打で存在感を示した津脇大輔(3年)

2次戦登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	加藤 颯	3	さだ (大阪)	その他 ニューヤンキース
2	捕	林 憲伸	3	精華西	シニア 奈良西
3	一	稲葉 康誠	2	旭丘	ボーイズ 京都二条
4	二	萩原 大智	2	龍華 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
5	三	星野 大和	3	吉良 (愛知)	シニア 愛知衣浦
6	遊	塚本 遵平	2	田辺	ボーイズ 南都
7	左	北川 陸翔	2	南淡 (兵庫)	中学野球
8	中	藪木 伊織	3	精華西	少年野球 田辺東
9	右	築山 隆翔	2	二名 (奈良)	ボーイズ 生駒中央
10	投	杉村 颯汰	2	八尾 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
11	投	杉田 聖児	2	藤嶺学園藤沢 (神奈川)	シニア 横浜泉
12	捕	伊東 航	2	三好 (愛知)	ボーイズ 愛知長久手
13	捕	奥田 壮真	3	寝屋川十 (大阪)	シニア 寝屋川中央
14	内	津脇 大輔	3	登美ヶ丘 (奈良)	シニア 奈良
15	内	橋本 晃	3	吹田二 (大阪)	ボーイズ
16	内外	倉知幸太郎	2	坂下 (愛知)	ボーイズ 愛知瀬戸
17	外内	岩間倫太郎	3	成和	シニア 京都丹後
18	投	増田 大悟	3	立命館宇治	中学野球
19	外	中川 綾	3	都南 (奈良)	シニア 奈良西
20	内	池田 光汰	3	男山東	ボーイズ 高槻中央

4月23日(土) ブロック決勝戦 対洛東 立命館宇治三室戸

G

中盤まで緊迫の展開も、6回にビッグイニング

● 洛 東 000 000 0=0
○ 立命館宇治 000 107 x=8x

(7回コールド)
【立】加藤-林【洛】三上-辻
▼2塁打 三上(洛)

【寸評】

序盤、相手エースの球をなかなか捉えきれなかった立命館宇治は、4回にワイルドピッチで先制すると、6回には先頭の築山四球、稲葉三遊間、北川四球、岩間押し出し四球で2点目を入れると、呪縛が解けたように打線が爆発し、林、津脇、塚本、築山のタイムリーで合計7点を追加し、試合を決めた。

先発した加藤はこの日も危なげなく、被安打3で、奪三振は4ながら、またも無四球で、3塁を踏ませることはなく、0封した。

立命館宇治はAブロックを勝ち上がり、上位16校で争われる2次戦への進出が決定した。

2次戦初戦は5月3日(火祝)太陽が丘球場第1試合。



写真は1.2回戦6打数5安打の稲葉康誠(2年)

登録メンバーの変更

背番号5 橋本 晃(3年、吹田二/千里山ボーイズ)

背番号14 津脇 大輔(3年、登美ヶ丘/奈良シニア)

線番号15 和田 滉平(3年、洛西/高槻シニア)

4月16日(土) 2回戦 対同志社国際 立命館宇治三室戸G

加藤、5回9奪三振、2塁を踏ませず0封

● 同志社国際 000 00=0

○ 立命館宇治 046 9x=21x

【立】加藤-林

▼3塁打 藪木(立) ▼2塁打 塚本2、倉知、岩間(立)

【寸評】

立命館宇治は2回から打線が爆発し、林の中前2点タイムリーなどで4点を先制すると、続く3回には11人攻撃で6点を、4回には6安打で9点と終始主導権を渡さず試合を支配した。

先発した加藤は5回まで打者16人、被安打2、無四球0、奪三振9で、2塁を踏ませることはなかった。



写真は5回0封した加藤颯(3年)

1次戦登録メンバー

背番号	守備	氏名	学年	出身中学	出身チーム
1	投	加藤 颯	3	さだ (大阪)	その他 ニューヤンキース
2	捕	林 憲伸	3	精華西	シニア 奈良西
3	一	稲葉 康誠	2	旭丘	ボーイズ 京都二条
4	二	萩原 大智	2	龍華 (大阪)	ボーイズ 大阪八尾
5	三	星野 大和	3	吉良 (愛知)	シニア 愛知衣浦
6	遊	塚本 遵平	2	田辺	ボーイズ 南都
7	左	北川 陸翔	2	南淡 (兵庫)	中学野球
8	中	藪木 伊織	3	精華西	少年野球 田辺東
9	右	築山 隆翔	2	二名 (奈良)	ボーイズ 生駒中央
10	投	篠原 輝成	3	飛鳥 (奈良)	中学野球
11	投	杉田 聖児	2	藤嶺学園藤沢 (神奈川)	シニア 横浜泉
12	捕	伊東 航	2	三好 (愛知)	ボーイズ 愛知長久手
13	捕	奥田 壮真	3	寝屋川十 (大阪)	シニア 寝屋川中央
14	内	土田 峻佑	2	東宇治	中学野球
15	内	末次裕二郎	2	交野四 (大阪)	シニア 交野
16	内外	倉知幸太郎	2	坂下 (愛知)	ボーイズ 愛知瀬戸
17	外内	岩間倫太郎	3	成和	シニア 京都丹後
18	投	増田 大悟	3	立命館宇治	中学野球
19	外	中川 綾	3	都南 (奈良)	シニア 奈良西
20	内	池田 光汰	3	男山東	ボーイズ 高槻中央

4月7日(水) 2回戦 対京都両洋 あやべ球場

立命館宇治 =

立命館宇治 =

【立】

【立】

▼塁打

【寸評】

写真は(年)

2022年5月度のトピックス

22年度 春季京都府高等学校野球大会

5月29日

3チーム編成で6戦5勝1分、夏への弾みとなるか



この日の練習試合はA(レギュラー)が天理と三本松(香川)、B(1.2年)が天理B、C(2.3年)が関大北陽と6試合を行ったが5勝1分。Aは天理のコールド勝ちを含めて2勝。Bも1年生の完封などで天理に連勝した。Cは打撃戦になり1勝1分であった。

スタッフはB、CでAに呼べる人材を探している。しかしどのスタッフも入れ替えとなると自信をもつての推薦とはならない。今日のA戦対天理でも先発7名が2年生。何とか3年生に頑張って貰いたいという思いは里井監督を筆頭にスタッフ全員の強い思いだが、残り時間はよいよ秒読み段階に入ってきた。

5月28日

中間テスト終わり、全員でサバイバル再開



1学期の中間テストが終わり、100名の部員が所狭しと練習する光景が戻ってきた。この週末からはチームを3編制に分けて、練習試合を行う。学年に関係なく、夏の選手権に向けたメンバー選出が大きな山を迎えることになる。

3年生にとっては高校野球が出来る日はカウントダウンとなってきた。残りの練習、練習試合でいかにアピールできるか。テスト直近の練習試合では、岩間主将以外の8名が2年生先発という試合もあった。経験上、3年生が躍動しない大会で勝ち上がったことはないと言い切れる。何とか30名の3年生に最後の奮起をしてほしい。

5月24日

大学準硬式野球部新幹部に「本気」のOB



大学準硬式野球部の新幹部にOBが就任したと連絡があった。。準硬式野球部にはOBが多数在籍し、中心選手として活躍しているが、新主将の谷OBから「本気で全国を狙いたいので、練習量を増やしたい。使用していないティーボールがあれば譲って欲しい」と連絡があり、高校スタッフも快諾した。

- 主 将 谷 樹彦 堺中央ボーイズ出身
第101回選手権で3塁ベースコーチ
寮生HR委員長
- 副主将 吉村 仁 守口ボーイズ出身
第101回選手権で主将
日本学生野球協会表彰

5月21日

テスト前でもメンバー厳選で練習試合



今日が大会50日前となる。来週から中間テストが始まるが、メンバーを厳選して短時間練習を続けてきた。そしてこの週末もいつも通り練習試合を行った。

文武両道は高校野球の基本であり、それをないがしろには出来ない。どちらも結果を求められる厳しい時期だが、多くの先輩たちが通ってきた道である。「朝練なし」「居残り練習禁止」の中で、限られた時間でどうアピールするか。夏の選手権メンバー登録まで後半月となった。

何とか3年生に頑張って貰いたい。

2022年4月度のトピックス

4月30日

浅野彰久OB、衝撃のリーグ戦デビュー



3年前の夏の甲子園で2年生・4番・捕手でチームの中心的存在であった浅野彰久OB(立命館大学2回生)が、本日の関大戦で、初の先発デビュー。第1打席で先制点を叩き出すと、同点にされた第2打席では右越え3塁打で勝ち越し打を放つなど、活躍した。

今春、立命館大学は現時点で1勝6敗、勝ち点0と、かつてない低空飛行だが、今リーグ戦の浅野OBの活躍は高校現場の励みにもなる。

※写真は2回戦・星稜戦での浅野OB

4月19日

九州・別府からの便り、APU硬式野球部



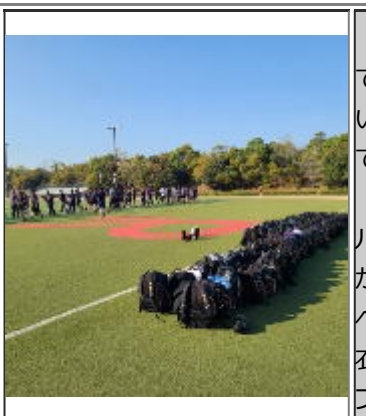
3年前の夏の甲子園で2年生で1番打者として活躍した宮下OBから、立命館アジア太平洋大学（APU）硬式野球部の近況が届いた。この春卒業した野球部OB数名がAPUに進学し、硬式野球部に入部。スタッフも試合速報を気にするようになった。

現在、九州地区大学野球連盟の2部リーグに所属し、宮下OB曰く、「1部への道のりは険しいです」とのことだが、OBが近況を知らせてくれて、高校現場も大喜び。

関西学生野球の立命館大学とともに、高校としてもこれから注目していきたい。

4月12日

100名の部員が朝練を行うと.....



いよいよ通常授業が開始され、放課後の練習に加えて、朝練が始まった。かつては入学当初は免除されていた1年生の朝練だが、昨年からの入学直後からとなっており、100名が一斉に動き出す。

更衣は体育館だが、更衣室に100名分のベースボールバッグが置かれると、それだけで他のクラブに迷惑がかかる。昨日から西田部長から「バッグはグラウンドへ持参するように」と指令が出た。こうすることで更衣室を広く明け渡すことができるし、防犯の意味でもプラスである。

4月9日

1年生が練習試合デビュー



7日に入学式を終えた1年生が練習試合でデビューした。この日はA戦、B戦で合計4試合が行われたが、春休みから参加した新入生の実力を紅白戦などで把握。スタッフからピックアップされた数名が初めて高校野球の実戦に触れた。

1年前はこの練習試合でデビューし、翌週の春季大会にスタメン出場した例もある。のんびりと2番手・3番手に安住しているメンバーには刺激となるはずだ。

週明け半ばには春季大会ベンチ入りメンバーの発表がある。

4月6日

週末から練習試合へ、新入生だけで練習



先月25日から練習に参加している新入生は、明日が入学式。そして入学式が終われば、いよいよ練習試合への出場も認められる。

この日は先輩メンバーがダブルヘッダーで練習試合を行ったため、昼休みを利用して、新入生だけでシートノックを受けた。もしもし休みと設定されていた入学式当日も、里井監督から急遽「休日返上」の指令が出た。早いものはこの週末にも出場機会に恵まれるかもしれない。

硬式野球部 [TOP PAGE](#)へ

2022年3月度のトピックス

3月23日

全国屈指の強豪校を三室戸に迎えて



この日は昨秋の東北大会準決勝で花巻東に敗れたため、センバツ出場は逃したが、今やあらゆるスポーツで全国に名を轟かせる仙台育英が初めて三室戸を訪れ、練習試合を行った。

里井監督と同年代のメンバーが集まるLINEグループで、仙台育英側から関西遠征の打診があり、今日は立命館宇治、明日は龍谷大平安と組まれた。

その迫力は高校生ではなく、投手陣はいずれも軽く140越え。第1試合では9回2死までリードしながら土壇場で追いつかれ、第2試合は投手戦を制した。

3月15日

秋の東北王者、センバツ出場の花巻東と



この日は午前が分散登校のために、センバツ出場する花巻東が三室戸で練習を行い、午後から練習試合2試合を行った。

花巻東といえば1年生ながら、もうすっかり全国区の佐々木麟太郎君に注目が集まる。1試合目は立命館宇治の加藤が被安打3で今シーズン初完封。佐々木君も4打席無安打2三振に封じた。第2試合は打撃戦となり、1点差で競り負けたが、佐々木君は無安打に抑えた。

この春休みはセンバツ組との練習試合はまだあるが、「非公開」としている。

3月13日

「兄貴分」に胸を借りる、貴重な経験



コロナ禍で練習試合は再開したものの、まだまだ例年通りとはいかず、突然の中止連絡が入ることもある。

今日は事情を話して、立命館大学1.2回生世代が胸を貸してくれた。試合前のノックから食い入るように見つめる高校生。登板してくる投手も軒並み140越えで、変化球のキレも高校生の比ではない。この日は卒業生である荒井豪太、森井舜也両OBが登板し、手加減のないピッチングで現役打線に対峙してくれた。

3月13日

ここが最高、スタッフの新たな観戦ポジション



シーズンを迎える前の紅白戦から、里井監督やコーチが最も全体が見渡しやすい場所として、SBOを設置するコンテナの上から視察することが増えた。吹きさらしで、寒い時や強風が吹きあれる時は、その洗礼をまともに受けることになるが、確かにここからだ全体が見渡せるし、投手の球種・コースも一目瞭然である。

かつては単管を組んで、「ビデ塔(ビデオ塔)」を設置していたこともあった。多人数は無理だが、2.3名なら確かに「特等席」である。

3月12日

春の太陽を受けて、練習試合が本格再開



学年末テストも終了し、先の大坂桐蔭戦を皮切りに、この週末から練習試合が本格的に再開した。待ちわびていたように気温も急上昇。

この日はAチームは兵庫の私学とアウェイ。Bチームはホーム三室戸で府内と大阪の私学とで変則ダブルを行った。

1塁側の土手には待ちわびていた近隣ファンも姿を見せて、「いよいよですね」と冬の間に成長した選手のプレーに熱い視線を送った。

3月12日

500歳野球春季大会は初戦で完敗



昨秋の500歳野球でベスト8へ進出した立命館宇治OBクラブが、古巣の黄檗球場で春季大会1回戦を戦った。

塔南クラブ相手に終始試合の主導権を握られたまま、なかなか見せ場も作れず、打線も散発3安打に抑えられての完敗となった。「何とか秋を上回る成績を」と気合いは入っていたが、定期的に練習を重ねる相手にはこのような展開になる。

今日もスタンドでは「かつての甲子園メンバーもいるのですか」と声がかかった。秋季大会では巻き返してもらいたい。

3月6日

公式戦直前、特例で明日より練習試合再開



連盟規定ではこの週末より練習試合が解禁だったが、まん延防止が適用されていたため、この週末は自重せざるをえなかった。いよいよ来週からと気持ちを切り替えた途端、またまん延防止の延長が発表された。様々な思いが交錯する中で、現場としては細心の注意を払いながらも、試合はさせてやりたいところ。

学校と相談したところ「三密回避の徹底」「手洗い消毒の徹底」「大会1ヶ月前」が確認され、明日7日から練習試合の実施が認められた。この週末は2学年を4チームに分けて紅白戦が実施された。グラウンドには球春を待ちわびた保護者の姿も散見された。

[硬式野球部](#) [TOP PAGE](#) [^](#)

2022年2月度のトピックス

2月27日

高校テスト休みにOBクラブが練習



この週末は高校が学年末テスト前のため、練習はなく、また大学の使用もなかったため、3月12日に春季大会を控えた立命館宇治OBクラブの練習が行われた。

昨秋は見事な快進撃でベスト8進出を果たし、「台風の目」と言われたが、23日に行われた練習試合では大敗。今年度は決勝戦に進出し、わかさスタジアムで試合をという目標が遠くかすむスタートに、さすがに練習不足を自覚したのか、有志が集まって短時間集中練習を行った。春季大会の初戦は宇治黄檗球場で行われることになっており、「黄檗では負けない」という思いは結実するのか。

2月25日

3年保護者会から卒業記念品が寄贈



来月5日に卒業式を迎える3年生の保護者会から、三室戸野球場に卒業記念品が寄贈され、この日グラウンドに設置された。現役保護者にも使ってもらえるものをと、今年も西田部長と相談の上、ネット裏のスタンドとなり、これで3台目となる。

かつてはパイプ椅子や背もたれベンチも老朽化しており、現場としては有り難い。相手チームの保護者も使用でき、テントで被えば、少人数ならちょっとした話し合いも可能である。大切に使用させて貰わなければならない。

2月19日

入部希望者34名で、春から100名越えに



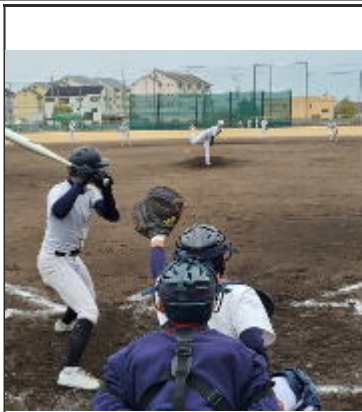
高校入試の合格発表が13日に行われ、それを受けて19日に生徒寮で入部説明会が行われた。例年は合格発表の日に行われていたが、今年は発表がインターネットとなり、しかも平日であったため、初めて週末に生徒寮食堂での実施となった。

現段階での入部希望者は34名。現1.2年が67名のため、立命館宇治となって初めて100名を越える所帯となる。「春からはさらに練習を工夫しなければ」という思いを巡らせた。

新入生の練習参加は日本高野連の規定により、3月25日からとなる。

2月13日

早くも実戦モード、熾烈なポジション争い

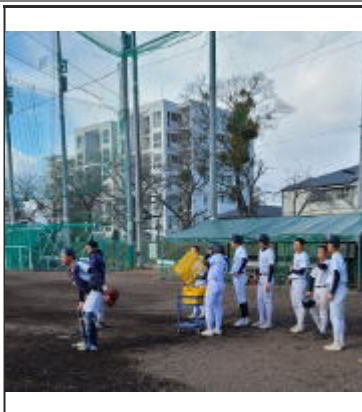


高校入試期間は天候にも恵まれ、早くも紅白戦、シード打撃が行われた。午前と午後に分かれて招集された部員は、里井監督をはじめ、スタッフの前で猛アピール。特に投手陣は今までなかった140越えが複数現れ、スタッフもトレーニング効果を実感した。

春からは30数名の新入部員を迎えることが予想され、そうなれば100名を越える所帯となり、投手だけでも30名に迫る。公式戦でベンチ入り出来るのは多くて4名。野手は各ポジション2番手までに入っていないと厳しい状況となってくる。

2月6日

コロナの足音が近づく中、細心の注意で練習



オミクロン株の急速な拡大が日常となり、その脅威に細心の注意を払いながらも、練習が続けられている。

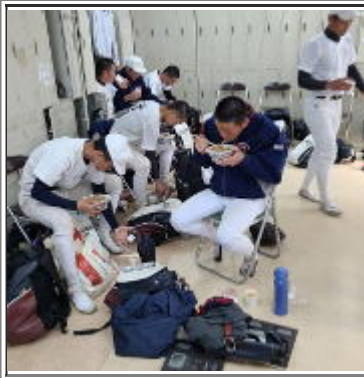
クラブの練習時間は2時間と限定されたが、通常授業のない土日は学年別、ポジション別に分けられ、練習が「密」にならないように工夫。短時間で集中して練習を行い、午前メンバーと午後メンバーが汗を流している。基本的にはグラウンドでは昼食はグラウンドではとらずに、各部員は自宅や寮でとなる。勿論、居残り練習も厳禁と通達している。

[硬式野球部 TOP PAGE](#) ^

2022年1月度のトピックス

1月9日

保護者会炊き出し、今年は牛丼で



年明けのイベントに保護者会の炊き出しがあり、多くの保護者集まり、温かいうどんや善哉を部員たちに振る舞い、スタッフとも年始挨拶を兼ねた交流があったが、今年は綿密な計画準備がされながら、直前にオミクロン型の感染拡大が懸念され、お弁当形式の実施となった。

全員「牛丼の大盛り」であったが、寒い中、部員たちには味噌汁も振る舞われ、これには部員たちも思わず「これは有り難い」としばし胃袋を温めた。

1月4日

通学可能な部員のみで新春練習再開



年が明け、まだ閉寮中ではあるが、通学可能な部員48名で、練習が再開した。すでに年明け早々に、里井監督から初日の出の写真とともに、「目標はひとつ。決意を新たに頑張ってくれることを期待する」とLINEメッセージが全部員に届いており、全開モード。

少し時間的に無理をすれば通える範囲の寮生も含め、48名が参加。練習前の草抜きというルーティンから始まり、参加48名がグループに分かれて、汗を流した。

硬式野球部 [TOP PAGE](#)へ